



当事者の視点でボランティア
地域の困りごとにも対応

キッカケ

伊万里市の西部、国見山系の標高300mに位置する川内野棚田。農家の高齢化が進むなか、地元生産者で構成される川内野COME倶楽部と金崎建設株式会社は、令和元年に棚田ボランティア協定を締結しました。川内野地区では、佐賀大学との協働でイノシシ除けの網をイルミネーションで飾り、棚田で音楽コンサートを開くイノピカプロジェクトを実施。地域外の人たちも巻き込みながら、交流人口を増やす取り組みを積極的に行っています。



組織概要

昭和24年、伊万里市で創業した金崎建設。伊万里市を中心に佐賀県全域、長崎県、さらには福岡県で総合建設業を手掛ける企業です。「地域密着型工事」を目指し、道路や河川、用地造成などの土木分野をはじめ、一般住宅から公共施設まで建築分野で活躍。地元企業として持続可能な地域づくりを担うため、棚田ボランティアや伊万里湾のカブトガニ産卵地の清掃活動を行うなど、社員一人ひとりが自主的にボランティア活動に取り組んでいます。



中山間地域での挑戦



左: 幸松 伝司さん

つながり

ボランティア活動の中心を担う、金崎建設の山口和勇さんは川内野地区出身。自らも小規模ながら棚田を耕作し、地域の課題に直面しているからこそ建設業の強みを生かしたボランティアを行っています。「現在は草刈り作業がメインですが、以前はイルミネーションを設置する作業もサポートしていました」と山口さん。第1回のイノピカプロジェクトから支援していることが評価され、農水省より「つなぐ棚田遺産」感謝状が送られました。

耕す未来

地域の担い手として関係人口を取り込むことは、課題解決の期待につながります。外部の人間を拒む閉鎖的な地域もありますが、川内野地区はとても柔軟。「イノシシの捕獲をしていた地元の人間が高齢で難しくなり、棚田ボランティアで顔見知りになった方に免許取得をお願いしたところ、“地域のためになるなら”と快諾してくれました。かなり珍しいことだと思います」と幸松伝司さん。草刈り作業もイノシシの捕獲も、中山間地域ならではの困りごと。当事者の視点になったボランティア活動に今後も取り組んでいきます。

山口 和勇さん



● イノピカプロジェクトにあわせて草刈り作業

イノシシの侵入を防ぐ網にイルミネーションを設置する前段階として、地域住民と一緒に草刈り作業を実施。イルミネーションの点灯期間は、山の日(8月11日)~12月31日。

● イノピカコンサートで設備支援

10月に開催されるコンサートは、イルミネーションと音楽を星空の下で楽しむ野外イベント。当日使用する発電機や仮設トイレなどの設置を担当。

● 地元からの依頼で、わな猟免許を取得

地元住民から依頼され、金崎建設の社員(1名)が「わな猟免許」を取得。農作物に被害をおよぼすイノシシの捕獲が目的。